

=====  
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の  
皆様にお送りしております。  
=====

◆◇-----  
◆ NEE Mail Magazine 104号 ◆

-----2017-9-1◆◇

長月(ながつき)の九月です。多くの学校が新学期になります。

本日9月1日は、防災の日。1923年の関東大震災が発生した日に、ちなんだ  
記念日です。現在はこの日を起点に防災週間として全国各地で防災への取り組み  
がおこなわれています。

次期の学習指導要領では、防災に関連する学習が強化されることになっています。  
「天災は忘れたころにやってくる」という有名な言葉がありますが、最近は「天災は忘  
れる前にやってくる」可能性が高くなっています。経済リスクだけでなく、自然災害もふ  
くめた総合的なリスク管理が求められるということでは大変ですが、何事も「備えあれ  
ば憂いなし」でしょう。

そんな季節、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を  
提供いたします。

-----  
【1】最新活動報告

8月の活動を報告します。

【2】イベントカレンダー

冬の教室の情報、部会の案内、関連団体の活動などを紹介します。

【3】授業のヒント「経済の授業を始める前に」

-----  
【1】最新活動報告

8月に行われた活動を報告します。

■「夏の経済教室」、盛況のうちに終了しました。

東京証券取引所と共催で毎夏に行われている「夏休み先生のための経済教室」、  
10周年の今年も盛況のうちに終了しました。

(1) 参加者数は900名を超えました。各会場の参加者数は以下の通りです。

8月7日 大阪中学向け(97名) 会場:国民会館

8月8日 大阪高校向け(79名)

8月14日 東京高校向け①(172名) 会場:東証ホール

8月15日 東京高校向け②(146名)

8月17日 東京中学向け①(167名) 会場:東証ホール

8月18日 東京中学向け②(159名)

8月21日 名古屋中学向け(42名) 会場:ウインクあいち

8月22日 名古屋高校向け(53名)

合計 915名(昨年比+66名)

(2) 今年の参加者数の特徴は、東京中学(+111)が大幅に増加したことです。次期の学習指導要領が発表されたこと、大竹先生がはじめて中学の講演に登場されたことなどが要因かと思われます。東京高校は微増(+8)、大阪会場(-36)と名古屋会場は(-17)やや減という状況でした。

(3) 参加者からは、10周年の講演(吉川先生、村田先生)、各先生方の講義、実践報告・授業提案、体験講座など多彩なプログラムなど、他の同種の会に比べて格段に深化した内容に対して高い評価が寄せられました。提出されたアンケートの分析などを踏まえて、本年度の総括と来年度への取り組みを行なってゆく予定です。

(4) なお、講義内容の記録は整理ができ次第 HP にアップいたします。

---

## 【 2 】イベントカレンダー

---

\* イベント予定です。

■「冬の経済教室」を開催します。

経済教育ネットワークでは、この冬も「冬の経済教室」を開催します。今年も、全国公民科・社会科教育研究会授業研究委員会、東京証券取引所との共催で、「経済教育の風を主権者教育に」をテーマに、講演と実践報告を中心にした企画です。

(1)日時:2017年12月27日(水)13:00~16:45

(2)場所:慶應義塾大学三田キャンパス東館ホール

(3)主な内容

講演:「多数決を疑う」(仮題) 慶應義塾大学経済学部 坂井豊貴教授

実践報告:

埴枝里子(東京都立府中東高校)、大塚康之(大阪府立三国丘高校)、

竹内大輔(北海道日高町立日高中学校)の三人の先生が実践報告を行う予定です。また、実践報告をうけて、全体での討論も行います。

プログラムの詳細および募集方法は決まり次第、HPに掲載いたします。

\* 定例部会のお知らせです。(既報分も含め開催順)

■東京部会(No.94)を開催します

日時:2017年9月9日(土) 15時00分~17時00分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究棟 446 会議室

今回は中学校の先生方が参加しやすいように、曜日、時間、会場がこれまでとは変わっていますので、ご注意ください。

参加方法などは以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo094flyer.pdf>

■札幌部会(No.18)を開催します。

日時:2017年9月16日(土) 14時30分~17時00分

場所:キャリアバンクセミナールーム

参加方法など詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo018flyer.pdf>

■名古屋部会(No.13)を開催します

日時:2017年10月7日(土) 15時00分~17時00分

場所:椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

参加方法など詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya013flyer.pdf>

\* 関連団体のお知らせです。

■金融広報中央委員会

第14回 金融教育に関する小論文・実践報告コンクール(教員向け)

締め切り:9月30日。まだ間に合います。

<http://www.ron2017.jp/>

---

### 【 3 】授業のヒント

---

■経済の授業を始める前に

今回のヒントは、夏の教室での野間先生の講義と篠原先生の講義からヒントを得たものです。

野間先生は、中学校向けの講義「公民教育の理解の仕方・教え方」で、経済を教える基本的な考え方を紹介されました。この考え方そのものは、すでに2年前の経済教室で講義されていますが、その重要性を今回改めて確認することができました。

野間先生がまとめた経済学の考え方の基本は次の5つです。

①登場人物は合理的個人、

- ②分業と交換のしくみが経済の基本、
  - ③市場の効率性は世の中をよくする、
  - ④しかし市場には限界(市場の失敗)がある、
  - ⑤それを補正するはずの政府にも失敗もある、というこのものです。
- また、経済の仕組みには、民間が作る仕組みと政府が作る仕組みがあり、その混合で現実の経済は動いていること、そして、よい仕組みとは何かに関しては、効率性と公正性、安定性などが判断基準になると指摘されました。

この考え方にに基づき、それぞれの経済問題、例えば、金融や財政、労働や福祉などの問題に関して取り組むことができます。

まず、市場ができることを押さえ、市場の限界、それに対する自助努力、それだけで足りない場合の政府の調整、政府の調整もうまくないときにどうするかという流れで、課題を考えさせてゆくというものです。

もう一つのヒントは、篠原先生が東京の高校向けで講義をされた「ブロック経済、ブレンツウズそして現代」の中での指摘です。

篠原先生は、このテーマを理解するには前提の理解が必要ということで、国際金本位制について触れました。それは次のようなものです。

国際金本位制度は、

- ①各国が自国通貨と金の交換比率を固定すること、
- ②各国が金と通貨の交換を保証すること、
- ③各国の通貨発行量を金準備と連動させること、
- ④各国は金の国際間の移動を許可すること、の四つの条件が成立するときに成り立つというものです。

そして、それぞれの条件を動かすと以下のような状況が生まれると説明されます。

- ①を変える場合は、為替レートの変更が起こる、
- ②を停止するとこの国は金本位制から離脱することになる、
- ③を守ると、政府に資金が必要な時でも中央銀行は国債を引き受けられない、
- ④をやめると金輸出禁止で固定為替レートを放棄することになり、逆の場合は金輸出解禁になる、と指摘されました。

この説明の重要な部分は、ある事象を考える場合には、まず基本的な定義や原則を押さえた上で、その要素の一つ一つを動かすと何が起こるか、それを考えることの大切さに触れているところです。

複雑な歴史的な現象や経済現象を授業のなかで生徒に理解させるのは、難しい作業ですが、このような、原則とその要素を押さえて、要素が変わった時に何が起こるのかを押さえておくことで、問題がクリアーに見えてくるのが篠原先生の講義から浮かび上がります。

両先生の経済問題に対する捉え方はエコノミストの問題のとらえ方のエッセンスを紹介したものであると言えるでしょう。

中学でも高校でも、多くの学校では経済の授業は二学期からという学校が多いはず。経済の授業を始める前に、このような経済学からの問題の把握方法、理解のさせ方を活用したらどんな授業がつかれるか、先生方が振り返ることから始めることをお勧めします。

そういった振り返りの作業を通すことで、アクティブラーニングが要求している、深い学びに通じるヒントが得られることだろうと思います。 (新井)

---

#### 【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

---

今年の夏の教室でびっくりしたことは、村田晃司先生の講演がレジュメなし、メモなしで行われたことでした。篠原代表によると、国際政治学者にはこのスタイルの方は結構いるよとのことですが、記録係としては講演のメモをとるのが大変でした。

とはいえ、内容は細かい数字をだしながら、シャープな分析をされて、聴衆を魅了しました。あれは一種の芸ですね。それに比べると、私などまだ修業がたりないと思わされた90分でした。

(新井)

---

=====  
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより  
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

◆◇

編集・発行 : 経済教育ネットワーク

----- (C) Network for Economic Education ◆◇